

# 松禪寺報

石室山松禪寺

住職 高橋 乾峰

〒 668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾 469

電話 0796-55-0034

FAX 0796-55-0066

Mail kenpou@syozen.com

<http://syozen.com>

第26号

発行 平成19年8月25日

## 清風起こす心の団扇

この夏の暑さは格別でした。夜になっても外からは涼しい風は吹き込まず、暑苦しい毎日が続いたため夏バテという人もあることでしょう。

私が子どもの頃、8月の施餓鬼会では、大きな団扇を

持ってお経を唱える和尚さんたちの背中から扇ぐのが役目でした。一人目、パタパタ、二人目、パタパタ、こうして読経の間、本堂のなかをグルグル回っていたものです。その後、何歳の時か忘れてしまいました。法衣を着て施餓鬼会にデビューしましたが、あえなく暑さでダウンしたことを覚えていています。今では扇風機を回していますが、施餓鬼会は暑い行事ですね。暑いといえば棚経も、最も暑い時期に外をテクテク歩いて回ります。希

に仏間にエアコンがあるお家もありますが、ほとんどは扇風機です。しかし、これまた希に、仏壇の前に坐しお経を読み始めると、私の背中にゆるやかな団扇の風がたたくことがあります。とても柔らか

い風ですが、しっかりと涼風を送ってくれるのです。とても体に染みわたる風に、父の俳句を思い出しました。

風鈴に団扇の風を送りけり  
扇風機明治の人のさけて坐す  
扇風機ここにも明治の人のあり  
風くれし団扇の主や初盆会

扇風機の風を好まなかった父が、残した俳句です。何かしら、夏の風情を感じませんか。

昔は、扇風機もエアコンもないなか、この暑い夏を過ごしていたわけです。むろん、今ほど地球が熱くなかったというところもありますが、涼を求めるいろいろな工夫を暮らしの中でやってきたわけです。団扇、風鈴の音、打ち水など、もともととあるはず。単に機械で冷やせば良いのではなく、見た目の涼しさも大切にしてきたわけです。それが、夏の風情でしょう。そして、それが私たちの心にも清涼な風を送ってくれていたわけです。



# あまねく一切に及びますように

## 施しの心で施餓鬼会を修す

年中法要の一つ、施餓鬼会(せがきえ)を、8月7日(火)午前10時より執り行いました。今年は、山門施餓鬼に続いて6件の初盆供養、添施餓鬼、鶏魂供養を、大変暑いなかにも多くの参拝者のもと

行いました。本堂前の外側には施餓鬼棚をつくり、「三界万霊牌」(さんがいばんれいはい)を置き、水、水の実(きゅうり、なすなどを生のままで細かく刻み、洗米と合わせたもの)、山海の珍味を供えます。

出頭された和尚様方は、

妙心寺派瑞泉寺の閑栖和尚様(和田山町)、大徳寺派安國寺様(町内相田)、妙心寺派東源寺様(夜久野町)、妙心寺派清太院様(夜久野町)、妙心寺派楊岐院様(豊岡市)、住職の兄、以上住職含めて7人です。

施餓鬼会の起こりは、お釈迦様の弟子で多聞第一と称された阿難尊者(あなんそんじゃ)が、瞑想中に現れた餓鬼に「おまえは三日後に死んで餓鬼になる」と言われ、お釈迦様に助けを求めたとこ



ろ、「施餓鬼棚に山海の食べ物をお供えし、多くの僧侶と共に施餓鬼会の法要をなささい。そうすれば、すべての餓鬼に施され、あと3日の命が救われよう」と教えられたという故事に由来しています。つまり、飲食供養(おんじきくよう)の功德により亡者を救う行事として起こったものですが、この地方では初盆供養として執り行うほか、先祖並びに有縁無縁の万霊に供養する法要となつていきます。いわば、盂蘭盆会(うらぼんえ)の行事と混同して執り行っているのが現状です。

その盂蘭盆会の起こりは、お釈迦様の弟子で神通第一と称された目連尊者(もくれんそんじゃ)が、その得意の神通で亡くなった母を探すと、餓鬼道に堕ちて喉を噎らし飢えていました。そこで、水や食べ物差し出しましたが、ことごとく口に入る直前に炎となつて母親の口には入りません。そこでお釈迦様に相談すると、「安居の最後の日にすべての比丘に食べ物を施せば、母親にもその施しの一端が口に入るだろう」と教えられ、その通りに実行すると母親は無事成仏したという故事に由来しています。盂蘭盆とは、サンスクリット語の「ウラバンナ」を音訳したもので、「地獄や餓鬼道に落ちる」という意味で、つまりは先祖や亡くなった人たちが苦しむことなく、成仏してくれるように私たち子孫が報恩の供養をするものです。

いずれにしても、広く、大きな心で、今ある命を感謝する法要、私たちは大いなるものに抱かれあふること確認し、お互いが施しの心を養う大切な行事ともいえま

# 四方山話

韓国の禅僧・法頂(ポプチョン)

和尚の著「無所有」(東方出版発行)は、一九七六年に刊行された随筆集で、大ロングセラーになっているそうです。五木寛之著「21世紀仏教への旅・朝鮮半島編」を読んでいたら、法頂和尚との出会いが書かれています。恥ずかしながら、これまで全く知らなかったわけですが、中学校の教科書にも採用されたことがあるそうです。この『無所有』(むしょよゆう)のほか、『すべてを捨てて去る』もよく読



まれているようです。

書き出しには、「必要に迫られていろいろな物を持つようになるが、時には、その物のためにあれこれと心をわずらわすことになる。」と始まります。何かを持つことは、何かに囚われることだから、より多くの物を持つと、それだけ多くのものに縛られることになる、師は

元々、私たちが生まれながらに所有している物は、何も無いわけですが、そう、必要に迫られて所有物が増えていきます。時には、必要のない物まで所有したり、より多くの物を抱え込もうとしますが、大切な心を失うことが多いようです。不必要な言葉を口にした

り、疑いの念を抱いたり…。生きるために必要な物とは何かも問われています。物を所有すると、心配事も抱えることになります。「心配」とは、心を配ると書きますから、「うまく運ぶように気を使って手配すること。」という意味もあるようです。毎日の暮らし

り、疑いの念を抱いたり…。生きるために必要な物とは何かも問われています。物を所有すると、心配事も抱えることになります。「心配」とは、心を配ると書きますから、「うまく運ぶように気を使って手配すること。」という意味もあるようです。毎日の暮らし

# すべてを捨てて去る

法頂



の中で常に心配事があり、苦しみが訪れたりしますが、法頂和尚著の「無所有」の話ではありませんが、何かを持ったから楽しみもありますが、また不安や苦しみも持つことになるわけです。子どもが欲しいと思いつつ、子どもができれば、この子の健康のことや将来のことが心配になるでしょう。彼女が欲しいと願い、彼女がいざできたならば、本当に愛してくれているだろうか、浮気はしないだろうかと心配になるかもしれない。でも、欲しいと思つたのも自分であり、幸せになることを願ってそれを求めたならば、楽しみと苦しみは2つで1セットということになります。「楽しみだけいた

るだけでいい」ではなく、心配事は入りませんで」とは、言えないのです。もれなく付いてくるオマケのようなものですね。

とは言うものの、心配や苦しみは少ないに越したことはありません。楽しみなどにもれなく付いてくるのであれば、むしろその心配事に向き合うこと、逃げないことも大切かもしれません。つまり、より多くの楽しみ、苦しみ、心配事を経験することにより、我々は一回も二回も大きくなれる、人間として成長できるわけですから。

下手に心配事を取り除くと、それは楽しみを奪っていることにもなります。つまり、何も持たず、何人とも関わらずに生きることで、人間には無理なことなのですから。

下手に心配事を取り除くと、それは楽しみを奪っていることにもなります。つまり、何も持たず、何人とも関わらずに生きることで、人間には無理なことなのですから。



# 秋彼岸会

大いなるものに抱かれ  
さまざまな命を  
いただいていることに  
感謝しましょう

彼岸(ひがん)は、祖先を敬い、亡くなった人々を偲ぶ時節ですが、「感謝」と「懺悔」の日でもあります。彼岸とは、「到彼岸(とうひがん)の略で、梵語のパラミター(波羅蜜多)の意識です。悟りの世界を「彼岸」とい、逆に迷いの世界を「此岸」(しがん)といいます。「此岸」で苦しむ私たちが、いかにして「彼岸」に至るか、そのための懺悔と感謝を、左記のとおり彼岸会にて捧げたいと思います。

## 【ご案内】

9月23日(秋分の日)

午前8時30分 調理開始(当番さんよろしくお願いいたします)  
午前11時30分 彼岸会法要  
正午 お斉(みなさんで食事をいただきます)

# 特別報恩写経のご案内

## ◆遠諱報恩写経のすすめ

来る平成21年には、大本山妙心寺において開山無相大師六百五十年遠諱大法会が厳修されます。花園会(檀信徒の会)では、ご遠諱に協賛し特別報恩写経運動を推進することになりました。

この度の遠諱報恩写経は、ご遠諱のテーマである開山無相大師さまのお言葉「請う、其の本を務めよ」〜どう活かすわたしのいのち〜の写経と、般若心経の写経の二種類をご用意いたしました。

花園会員の皆様には、一巻以上の納経をお願いいたします。ご親族をはじめ、一人でも多くの方々にもおすすめていただきますようお願い申し上げます。本来は毛筆を用い、

浄水で墨をすって書きますが、誰でも容易に行えるように薄墨で印刷されたお経の上を、使いなれた万年筆や筆ペン等で丁寧になぞり書きをしてもよいとされています。

写経は、仏の教えを体得するための仏道修行でもあります。ただ一心に写経させていただけますと、いつの間にかすがすがしい気持ちになり、心も体もリフレッシュされ、感謝の気持ちが届いてきます。これも写経の功德です。

## ◆ご自宅での

### 写経のすすめ

ご自宅での写経は、好きな時間帯に毎日少しずつ

つゆつくりと出来ますので、是非おすすめいたします。写経は、何時、何処で行っても結構です。

ご自身の祈願やご先祖の年忌法要に当たり、「為○○○○○○○菩提」と書き、松禪寺を通してご本山に納めます。

初めて写経に取組む時は、厳しい作法よりもまず書いてみるのが大切です。習字を楽しみむくらの気持ちで書いてください。決して急がず、丁寧に書くことが大切です。家族で数行ずつ寄せ書き風にも書かれても結構です。

## ◆実施要領

### 実施期間

平成19年4月1日〜平成21年12月末日

納経料：一巻につき一千元也

一人で一度に10巻以上納経された方には、本山より記念品が進呈されます。

納経所：松禪寺

祈願法要：納経は本山花園会本部でまとめられ、微妙殿無相大師尊像の御前にて祈願法要後、祖霊堂下の納経所に納められます。

用紙の入手：松禪寺までご連絡下さい。

